



安曇野日和

連載コラム 院長室だより 病院長 桑村 智

2015年1月に安倍首相が「新オレンジプラン」を発表しました。「新」の部分に引っ掛かりを覚えて、思い返してみると2012年に認知症対策推進5カ年計画「オレンジプラン」として発表されており、既に取り組んでる最中だったのです。

先日、長野県医師会生涯教育講座として「新オレンジプラン」のレクチャーを受ける機会を得たので参加しました。厚生労働省の認知症・虐待防止対策推進室長：水谷忠由先生による講義で、旧→新とした理由から両者の相違点、現状および今後の課題に至るまで実に明快に解説していただきました。

計画の途中で仕切り直しをした背景には2013年に先進国G8が認知症に関連する問題を取り上げて検討し、各国持ち回りで「認知症対策推進キャンペーン」を開催しています。これを受ける形でWHOが「認知症は世界共通の課題であり一国のみで対策するのは困難である」と発表したことが大きく影響しているようです。

ともすれば、少子高齢化と何年も繰り返し聞かされてきた経験から、高齢化社会や限界集落、認知症等に関する問題は「我が国喫緊の課題である」と捕らえがちですが、諸外国においても問題に大差はなかったのです。各国それぞれに抱えている事情や文化の違いはあれど共有すべきデータや参考となる取り組みは必ずある、といったところでしょう。

水谷先生は講義の冒頭で、認知症対策に関して諸外国から日本が優れていると評価されている点を教えて下さいました。①医療・介護のシステムが整っていることからケア・予防に強みがある、②市民に向けた「認知症サポーター」など教育の充実、③痴呆症から認知症へ呼称変更した、等が取り上げられていたそうです。③に関しては、なるほど！と思いました。そもそもDementiaとは「呆ける」という意味ですが、2013年に発表されたDSM-VではNeurocognitive Disorder「神経認知障害」と改められています。日本はこれよりも10年も前に呼称変更をしていたというわけです。

講義の内容に関しては限られたスペースでぐちゃぐちゃと解説するよりもとても解りやすい資料をいただいていたので、近日中に職員に向けた伝達講習を実施するつもりです。

精神科病棟だより

2-2病棟 三九郎

平成27年1月21日（水）に、病院の農場にて三九郎のレクリエーションが行われました。雪が積もった農場にやぐらを組み、年末年始に病棟の正面玄関に飾った門松と、患者さんが作業療法で作った雪だるまやお正月飾りを使って三九郎を行いました。

午前中に院内の喫茶室で、3名の患者さんが三九郎終了後に食べるおしるこを作りました。並行して、農場で数名の患者さんが三九郎のやぐらを組み、飾り付けを行いました。飾り付けが上手にでき、患者さんはとても満足そうでした。

午後、三九郎作りに参加した患者さんと農場へ行き、三九郎に火をつけました。閉鎖病棟のため、多くの患者さんは病棟内から窓越しに見ていましたが、大きな炎に「おー！」「すごいね！」と感動の声を上げていました。乾燥していたためか、あっという間にきれいに燃え終わりました。

おやつの中には、午前中に準備したおしるこをみんなで食べ、数多くの喜びの声を聞くことができました。



1-3病棟 節分

平成27年2月25日（水）に、節分のレクリエーションが行われました。紅白に分かれて鬼の的に玉を投げ入れ、点数を競いあいました。チームごとに赤と白のハチマキをしてゲームを行うことでチームとしての一体感が生まれ「がんばれ」「うまい」といった応援のかけ声も多く飛び交いました。

玉入れ終了後のおやつは、午前中に数名の患者さんが作ってくれたクレープの恵方巻きでした。チョコレート味のクレープ生地を作るとき、だまにならないように牛乳を少しずつ加えて、その都度混ぜていきましたが、初めのうちは生地がかたくて混ぜるのが大変でした。作った生地をホットプレートで薄く焼き、クリームやジャムを巻いて恵方巻き風のクレープが完成しました。

おやつときには、今年の恵方の西南西の方角をむいて、みんなで願いを込めながら食べました。クレープを作った患者さんは、「みなさん美味しいと食べてくれたので、とても嬉しかった。作りが良かった。」と感想を話してくれました。



介護療養病棟だより

認知症と嚥下

医師 関口 裕孝

嚥下（えんげ）とは食べ物を滞りなく飲み込むことですが、認知症疾患にかかっておられる方は病気の進行とともに嚥下機能が落ちていくことがあります。すると本来、口から食道を通して胃に到達するはずの食べ物が誤って気管支・肺に入り込んでしまい、こじらせると誤嚥性肺炎を発症することがたびたびみられます。

これに対し生体は間違っただけで食べ物が肺に入らないよう反射的に咳き込む、つまり「むせる」ことによって防御しようとしませんが、ある程度まで認知症が進むと一見してむせずに食べているように見えても、実際には咳反射が起こらなくなって誤嚥する場合があります。これを不顕性誤嚥（ふけんせいごえん）といい、むせることができる方よりも誤嚥性肺炎になりやすいと考えられています。

当院では患者さんそれぞれの嗜好、食べやすさを考慮に入れて食事を提供していますが、誤嚥を防止するよう「飲み込みやすさ」にも配慮しています。そのために管理栄養士、看護師、介護士、作業療法士さまざまな専門性をもつ職種が協力して食事の量・形態・食器などについて日々検討を行っています。

誤嚥性肺炎の治療は一旦食事をお休みして肺炎の治療薬を用いるのですが、一度発症した誤嚥性肺炎は再発しやすいという重要な問題があります。再発防止のためにどのようなアプローチがあるのでしょうか？食事形態の再検討や精神科治療薬を使用されている方は副作用で生じる眠気、嚥下機能の低下が原因で誤嚥が起こり得ますので薬の見直しも必要です。最近では咳反射（むせ）を誘発する作用を利用して再発防止効果が認められている薬がありますので病態に合わせて内服していただくこともあります。ある種の高血圧治療薬、パーキンソン病治療薬、脳梗塞予防薬、漢方薬などがそれにあたります。

このように患者さんの生命に直結する食事を安全に摂っていただくためにあらゆる視点から治療・ケアに取り組んでいます。

冬の会（紙芝居とおしるこ会）

平成27年2月14日（土）に、冬の会を行いました。節分は過ぎましたが、鬼の出でくる紙芝居を行い、その後、おしるこ会を行いました。

おしるこは、朝から職員がコトコトと煮込み、おもちの代わりにワンタンの皮を用いました。ワンタンの皮を切ってゆで、あんこと混ぜて煮込みました。また、食事形態によって水ようかんも用意しました。10kg程作ったおしるこでしたが、残すことなく全て完食でした。患者さんは「久しぶりにおしるこを食べた」「甘くておいしかった。また食べたいです」などと感想を述べていました。



黒沢の滝

広報委員長樋口が、当院の近くにある黒沢の滝まで写真を撮りに行ってきました。

黒沢の滝は、夏場は、数百メートル手前まで自動車で行けますが、雪の積もる冬場は、3キロ手前のゲートから、自分の足だけを頼りに行くことになります。夏は勢い良く流れ落ちる滝が、冬の寒さで見事に凍りつき巨大な氷の壁になっていました。



この写真は、全体を撮影しようとして、滝の下まで行き、雪が乗った足場があると思いきや、雪だけしかなく、滝壺に落ちそうになりながら撮った写真です。なんとかまわりにしがみ付き、落ちなくて済みましたが、カメラは濡れて、その後は撮影できなくなりました。

帰ってから確認したところ、思いのほかうまく撮れていたので、SBC信越放送夕方のニュース番組SBCニュースワイド内の『私の撮っておき!』のコーナーに投稿し、テレビで紹介していただきました。苦労して撮っただけに、テレビで放送されたときは、嬉しかったです。

紹介のお礼にSBC信越放送のキャラクターの「ろくちゃん」のクリアファイルと、マスコットを頂きました。



病院の理念

慢性期の患者さま一人一人の病状・置かれている状況を個別的に考え人格を尊重し、全職員が職種を超えてチームを組んで一体的に治療目標が達成できるように最良のサービスを提供する。

病院の基本方針

1. 地域への貢献
2. 医療安全・サービスの質の向上
3. 職場の環境づくり
4. 地域連携
5. 経営の健全化

精神科療養病棟150床・老人性認知症疾患療養病棟50床

患者さまの権利

患者さまは、人間として尊重され差別されことなく、公平で良質な医療を受ける権利があります。そのため私達は治療を始める際には、診療についての情報をご本人に説明しご理解いただいた上で患者さまのプライバシーを守り、意思を尊重し継続性のある医療を提供します。

〒399-8103
長野県安曇野市三郷小倉6086-2
TEL 0263-76-5500(代) FAX 0263-76-5501

社会医療法人 城西医療財団

ミサトピア小倉病院

編集後記

寒い冬が過ぎ、暖かさを感じる日々が増えてくると春の近づきを感じます。年度末の慌ただしい中、15号を発行することができました。毎回、無事に発行できているのは、編集に苦労している委員の努力に他ならないと考えます。

新年度になると各部署で新人職員の入職や新たな事業計画があります。どこの職場も、順調に進んで欲しいと願うばかりです

広報委員長 樋口 孝